

公共施設の総合的・戦略的維持管理

1. はじめに

徳島県は、世界三大潮流の一つとされる速い潮流が作り出す「鳴門の渦潮」、桃源郷と称される「祖谷の溪谷」に代表される「豊かな自然」、阿波藍、阿波おどりをはじめとする「類い稀な伝統文化」、新鮮で安全・安心を誇る「豊富な食材」など、数多くの「宝物」に満ちあふれています。

また、昨年度には、かねてより実現を目指していた「本州四国連絡道路への全国共通料金制度の導入」をはじめ、本四道路と徳島自動車道、徳島阿波おどり空港と高速道路の直結、さらには徳島小松島港の耐震強化岸壁が完成するなど、「陸・海・空」の交通体系が飛躍的な進化を遂げたところとなりました。

一方、今後30年以内の発生確率が70%程度とされる南海トラフ巨大地震に加え、近年、大型化する台風や激化するゲリラ豪雨など、大規模災害のリスクが高まるなか、こうした災害を迎え撃ち、この誇るべき県土を守り抜く「県土強靱化」が喫緊の課題となっています。

2. 大規模災害を迎え撃つ「県土強靱化」の推進

徳島県においては、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持つ、「強靱な県土づくり」を推進するため、本年3月、全国に先駆けて「徳島県国土強靱化地域計画」を策定するとともに、この計画の概要を「国連防災・世界会議」において、日本の代表として報告し、高い評価をいただいたところです。

この計画では、「すべての人命を守る」や「ライフライン等の確保・早期復旧」など事前に備えるべき8つの目標を掲げ、「ミッシングリンクの早期解消や緊急輸送道路等の強化」や「避難対策

の推進及び防災力強化」などハード・ソフト一体となった124にのぼる重要業績指標を設定するとともに、この「推進エンジン」となる「命を守るための大規模災害対策基金」を併せて創設し、県土強靱化に向けた取組みを加速しています。

一方、県土強靱化を図るうえで重要となる公共施設の老朽化対策については、適正な維持管理はもとより、将来コストの軽減や予算・事業量の平準化を図る、「戦略的な長寿命化対策」に取り組んでいます。

3. 公共施設の長寿命化対策の推進

日本の高度経済成長期を中心に整備が進んだ公共施設の老朽化が、近年、加速度的に進行するなか、限られた財源で効果的かつ効率的に「公共施設等の長寿命化」を図ることが、国・地方を通じての「重要かつ喫緊の課題」となっており、単なる修繕、改修による「機能維持」ではなく、県民の新たなニーズに応え、「付加価値」を高める視点が強く求められています。

このため、徳島県では、「新築や改築」といった従来手法にとらわれない、「既存ストックの有効活用」という「新次元の概念」を打ち出し、

- ・病院跡地への発達障がい者総合支援ゾーンの形成、空港旧ターミナルビルを活用した新運転免許センター整備といった「既存施設の思い切った用途転換」
- ・県営住宅や徳島県青少年センターへのPFI導入をはじめとする「民間資金・ノウハウの積極的活用」
- ・県立学校における「耐震補強とリニューアルの同時施工」に代表される「多目的かつ効果的な施設整備」

徳島県知事 **飯泉 嘉門**



・「対症療法型」から「予防保全型」へといち早く転換した「橋梁」などの「各種インフラ長寿命化計画」の策定
など、「創意工夫」を凝らし、「長寿命化」を実践してきたところです。

そして、これら「既存ストック有効活用先進県」としての取組みを、より一段高い次元へと進化させるため、本年3月、全庁的な「公共施設等のある方の抜本の見直し」を盛り込み、今後10年間を計画期間とする「公共施設等総合管理計画」を策定したところであり、この中で、「進化する！既存ストック有効活用型『長寿命化戦略』」として、次の5つの目標を設定し、戦略的な長寿命化対策を推進しています。

目標1 「施設の長寿命化」に関する目標

→長寿命化を「プラス一世代（概ね25年～40年）以上に！」

目標2 「既存ストック有効活用」に関する目標

→既存ストック有効活用件数を「2倍以上に！」

目標3 「PFI等の導入」に関する目標

→PFI等新たな行政手法の導入件数を「3倍以上に！」

目標4 「長寿命化に伴う行政コスト縮減」に関する目標

→長寿命化に伴う行政コストを「2割以上縮減！」

目標5 「長寿命化の推進体制の確立」に関する目標

→全ての類型に係る個別施設計画を「5年以内に策定！」

→公共建築物類型の保全台帳の整備を「5年以内に完了！」

→全庁的な公共施設等のデータベースを「3年以内に構築！」

4. おわりに

「人口減少の克服」と「東京一極集中の是正」による「地方創生」が国家的な課題とされるなか、徳島県は、「知恵は地方にあり！」のフレーズとともに、これまで「サテライト・オフィス」をはじめ、数多くの「課題解決の処方箋」を創造・発信してきたところです。

今後とも、「新しい日本のモデルを徳島から」との誇りを強く持ち、「既存ストックの有効活用」を基軸に「公共施設の戦略的な長寿命化・最適化」を推進することにより、「地方創生」の礎となる「強靱な県土づくり」にしっかりと取り組んで参ります。

とくしまの魅力と実力【vs東京】

平成26年9月、徳島県では、県政全般にわたる共通コンセプトとして、「vs東京」を策定しています。

ジャパンプルーの代名詞「阿波藍」、400年以上の歴史を誇る「阿波おどり」、日本の原風景「祖谷溪」、幸せをもたらす数々の食材、おもてなしのルーツ「お接待」文化、等々、「東京」にはない「徳島ならではの」「価値」。

「vs東京」は、この「価値」の発信により、都会の方々に地方の豊かさへの「気付き」を促し、「東京一極集中の是正」につなげる地方創生の「旗印」となるものです。